道徳科の実践例（中学校①）

１　本時の目標

(1) 主　 題 　名　遵法精神（内容項目〔Ｃ(10)遵法精神・公徳心〕）

(2) 本時のねらい　法やきまりの意識を理解し、それらを進んで守るとともに、そのより良いあり方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める態度を育てる。

(3) 資　 料 　名 二通の手紙（出典：「私たちの道徳」）

２　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | ○　発問等（◎中心的な発問）　・予想される生徒の反応 | ◆指導上の留意点　◇評価 |
| 導入 | ○　１通目の手紙を読む（感想を聞く）（ポイント①）・母親に感謝されて、とても良いことをした。　・子供たちの願いをかなえてあげて、優しい人だ。　等○　本文を音読（P140　L８まで）○　なぜ入れてあげないのでしょうか。　・入園終了時間が過ぎているから。　・いつまでも入れ続けると、きりがないから。　等○　本文を音読（P142　L５まで）○　あなただったら入れますか。入れませんか。（挙手させるなどして理由も聞く）（ポイント②）　・幼い姉弟がかわいそうだから、入れると思う。　・きまりがあるのだから、入れないと思う。　等 | ◆静かに語りかけ、資料の世界に浸ることができるように範読する。◆登場人物の行為を、自分のこととして考えさせる。◇自分の考えをもつことができたか。(立場表明・意見) |
| 展開前半 | ○　本文を音読（最後まで）◎　懲戒処分についてどのように感じますか。（ポイント③）　・感謝の手紙をもらうほど良いことをしたのだから、厳し過ぎる。　・人の命にかかわるきまりを守らず、独断で入園させて騒ぎになってしまったのだから当然である。　等○　グループごとに考え発表する。 | ◆「二通の手紙」というタイトルも踏まえ、懲戒処分についてじっくりと考えることができるようにする。◇自分の考えをもつことができたか。(立場表明・意見) |
| 展開後半 | ○　なぜきまりを守ることが必要なのでしょうか。　・独断できまりをやぶると、人の命にかかわることがあるから。　・きまりを守らないと、他人に迷惑をかけるから。　等○　個人で記入してからグループで交流する。○　ホワイトボードに記入して掲示する。（ポイント④） | ◆きまりを進んで守るとともに、自他の権利を大切にする態度が養われるようにする。 |
| 終末 | ○　親切心とルールを守ることの葛藤を日常場面で考える。○　自分の中の似た経験（思いやりも大切だが規則を守らないと困ることもある）をしたことはありませんか。その時に感じたことや、本時の感想を記入しましょう。（ポイント⑤） | ◇親切心とルールを守ることの両立が難しいことについて考えている。◆登場人物の行為を、自分のこととして考えさせ、これからの生活に生かしていこうという視点をもたせる。 |

３　授業におけるポイント

|  |  |
| --- | --- |
| ポイント① | ○　話の核心に触れずに１通目の手紙を読み聞かせることにより、この手紙の内容についての率直な感想を出させるようにしています。 |
| ポイント② | ○　１通目の手紙の内容を知った状態で発問することにより、生徒の心情に揺さぶりをかけながら立場表明をさせるようにしています。 |
| ポイント③ | ○　グループで協議することを通して、自分と異なる意見や立場の違う人とのかかわりをもたせることにより、自分の考えを深めさせるようにしています。 |
| ポイント④ | ○　ホワイトボードに書かせることにより、自分たちの考えや立場を可視化しています。 |
| ポイント⑤ | ○　今後の生活に向けて、考える場面を設定しています。 |

４　模擬授業後の協議で出された意見・感想〔□：よかった点、■：意見等〕

|  |
| --- |
| □　導入で、先に手紙を読ませる工夫をすることで、今後の展開での心情の変化を実感させやすい。□　展開前半では、懲戒処分についての意見を肯定・否定に分けて板書したので、考えを整理することができた。■　展開後半で、グループ討議・交流が設定され、多様な価値に触れる機会が保障されているのがよい。■　展開後半で、「きまりを守ること」が前提で進んでいくことがよいのか。■　展開後半で、発問に対する生徒の意見や考えの範囲を、もう少し限定した方がよいのではないか。 |